

1 単元名 説明文の秘密を探ろう ― 世界遺産 白神山地からの提言 ―
教材名 「白神山地の自然保護―緩衝地域の役割―」(教育出版5年下) 他

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の以下の内容を受けて設定する。

C 読むこと(2)内容

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかいたりすること。

「自分の考えを明確にする」とは、事例と自分の知識や経験とをつなげ、知識や経験を根拠とした考えをもつことである。本単元では、事例と自然とのかかわりに関する自分の知識や経験とをつなげ、自然保護に対して自分の知識や経験を根拠に考えをもつことである。

本単元は、言語活動を「白神山地からの提言を読み取り、提言に対する自分の考えをもとう」と設定し、2つの教材文と5つの資料とを、次の3段階に位置付けて構成する。

まず、教材文1と資料①～③である。子どもは、これらを読むことで、「世界遺産」、「世界自然遺産に登録されている白神山地」についての情報を得ることができる。この段階で、子どもは、「白神山地からの提言が意味する内容は、人の手が加わらないそのままの自然を守ることだ。自然を大切にすることが大事だ」と考える。この段階での子どもの考えは、まだ抽象的である。

次に、教材文2である。要旨(筆者の伝えたい考えの中心となる事柄)は、「世界遺産は、自然をただ守るだけでなく、人間が直接自然に接することで自然保護の機運を高める役割も担っている」である。この要旨を支える事例が、緩衝地域の事例である。緩衝地域の事例に納得できるかを判断させることで、子どもは、「自然と人とがふれ合うことで自然を守る気持ちをもつ」ということに対して、自分の立場を決め、「人間が自然と接することは自然を守ることにつながる」、あるいは、「自然と接しても、自然を守るうとする気持ちはもてない」という意識になる。

そして、資料④、⑤である。この資料は、人間と白神山地とが接することで生じるよさと問題点が述べられている。これらを読み、どちらの資料に納得できるかを判断させることで、子どもは、これまでの自分の知識や経験を想起してつなげ、白神山地からの提言が何であるのかという自分の考えをもつ。

以上のように、事例と自分の知識や経験とをつなげて、提言が何であるのかという考えをもてることが、本単元の価値である。

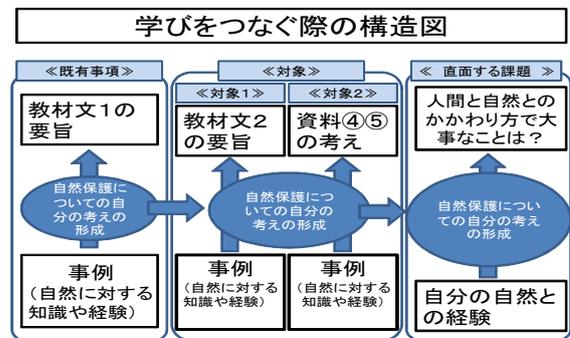
3 本単元で目指す姿と学びをつなぐ場面、考えるすべ

本単元では、「白神山地が私たちに提言していることは〇〇である」という自分の考えをもつ子どもの姿を目指す。自分の考えとは、自然保護についてのこれまでの自分の知識や経験を根拠として、白神山地からの提言をとらえているものを指す。

筆者は、自分の知識や経験の中から必要な知識や経験をもち出し、事例として述べることで要旨の根拠としている。この事例と要旨との関係は、子どもが自分の考えをもつ際にも同様である。提言が何であるかの自分の考えをもたせるためには、これまでの自分の知識や経験を自分の考えの根拠として見いださせ、自分の考えに見通しをもたせる場面が必要である。

子どもは、「関係付けるすべ」を用いて、対象となる教材文2、資料④、⑤から得る情報と自分の知識や経験にある情報とをつなげて整理する。整理した後で、白神山地が提言していることは何かを、自分の知識や経験を根拠として判断(分析)することで、自分の考えに見通しをもつ。教材文2と資料④、⑤とに分け、くり返し考えさせるのは、子どものもつ考えをより自分に近づけ、明確にさせるためである。

この二つの学びをつなぐ場面を経た子どもは、見通しをもち、「白神山地が提言していることは〇〇である」という自分の考えをもつ。



4 指導の構想

単元の副題「世界遺産白神山地からの提言」から、子どもは「世界遺産の白神山地は、私たちに何を提言しているのだろう」と意識する。これを、問いをもった状態とする。この意識を単元を貫く言語活動につなげ、「白神山地からの提言を読み取り、自分の考えをもとう」と設定する。

導入では、資料①、②、③と教材文1を順次提示し、内容を読み取らせる。子どもは、世界遺産の理念や、人の手が加わらないことで残されている白神山地の自然のすばらしさを知る。ここで、「世界自然遺産である白神山地は何を提言しているか」と問う。子どもは、読み取った教材文1や資料①～③の内容から、「自然を守ること。人が入らずにそのままの自然を大切にすることが大事だ」という考えをもつ。子どもは、自然保護に意識を向けている状態である。このような考えをもった子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1 (1日目)

教材文2を提示し、初めに考えた提言が意味する内容と合っているかを問う。

初めに考えた白神山地からの提言の内容に問いをもたせる働き掛けである。教材文2を提示し、読ませる。子どもは、初めに考えた提言と比較しながら教材文2を読む。ここで、「初めに考えた提言の内容と合っているか」と問う。子どもは、初めに考えた白神山地からの提言に対する「人が入らずにそのままの自然を大切にすることが大事だ」という考えと、教材文2にある緩衝地域の考えとの差異を意識し、「初めの提言の内容はそれでよかったのか」という問いをもつ。

働き掛け2 (1日目)

緩衝地域の事例に納得できるかを判断させ、その根拠を問う。

教材文2の事例と自分の知識や経験とをつなげさせる働き掛けである。教材文2の「核心地域(人が入ることを規制されている地域)」の事例は、初めに考えた提言の内容とつながる。しかし、教材文2では、「緩衝地域(人が自由に入ることのできる地域)」の事例も述べられている。この部分は、初めに考えた提言の内容との差異である。教材文2の要旨へとつながる部分でもある。そこで、子どもに、筆者の伝えようとする考えを緩衝地域の事例を基にとらえさせた後、緩衝地域の事例に納得できるかを判断させ、その根拠を問う。判断の根拠は、自分の知識や経験による。子どもは、「関係付けるすべ」を用いて、緩衝地域の事例と自分の知識や経験をつなげる。

働き掛け3 (1日目)

白神山地からの提言が意味する内容は何かを問う。

人間と自然とのかかわりについての自分の考えの見通しをもたせる働き掛けである。本時の学習のまとめとして、「白神山地は、私たちに何を提言しているか」と問う。子どもは、教材文2の事例とつなげた自分の経験を基に、提言が意味する内容は何かを判断する。判断した子どもは、自分の考えに見通しをもっている状態である。このような子どもに、自分の考えを記述するように指示する。子どもは、「自然の中に入るとその素晴らしさが分かることがあった。自然を守るためにも、人間が自然と接し、自然を守る意識をもつことが大事だ」と、白神山地からの提言が意味する内容をとらえ直し、自分の知識や経験を根拠とした考えをもつ子どもとなる。

働き掛け4 (2日目)

緩衝地域の内容を確認し、緩衝地域の事例に納得できるかの根拠を確かめさせる。

自分の立場を明確にさせる働き掛けである。「人間が自然と接することは自然保護につながる」という緩衝地域のもつ役割に納得できるかどうかを判断している子どもに、緩衝地域とはどのような地域であるのかを問い、教材文の叙述から再度確認させ、立場を決めた根拠を確かめさせる。子どもは、緩衝地域の事例に納得できるかどうかを判断することで、緩衝地域の役割である「人間が自然と接することは自然保護につながる」ということや、「人と自然とが接することで問題が生じることもあるのではないか」という意識になっている。

働き掛け5 (2日目)

2つの資料のどちらに納得できるか判断させ、その根拠を問う。

子どもに、資料と自分の知識や経験とをつなげさせる働き掛けである。子どもがどちらの資料に納得できるかどうかを判断する根拠は、これまでの自分の知識や経験による。「2つの資料は、自分にとって納得できるか」と問う。子どもは、2つの資料の内容と、自然とのかかわりに関するこれまでの知識や経験とを「関係付けるすべ」を用いて整理し、それぞれの資料に納得できるかを判断していく。納得できる、あるいは納得できないと判断した根拠を問うことで、子どもは、資料とつながる自分の知識や経験を根拠として挙げる。子どもは、資料と自分の知識や経験とをつなげ、白神山地からの提言を自分の立場でとらえ直している状態である。

働き掛け6 (2日目)

白神山地が提言していることは何かを問う。

子どもに、自分の考えに見通しをもたせる働き掛けである。資料と自分の知識や経験とをつなげた子どもに、本時の学習のまとめとして、「白神山地は私たちに何を提言しているか」と問う。子どもは、資料とつながった自分の知識や経験を分析し、自分の知識や経験の中から大事であると判断した知識や経験を選択する。選択した子どもは、自分の考えの根拠を見だし、自分の考えに見通しをもった状態である。

このような子どもに、「白神山地からの提言を書こう」と指示することで、子どもは、自分の知識や経験を根拠にして、「白神さんからの提言は〇〇である」という自分の考えを表現する。

5 指導計画 全8時間 (24Q)

別紙「単元カード」参照

6 本時の構想<第1日目> 5/8時間 (45分授業)

(1) ねらい

教材文2の事例と自分の経験とをつなげることで、白神山地からの提言が意味する内容をとらえ直し、自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 初めに考えた提言の内容と比較しながら教材文2を読むことで、「白神山地からの提言は、初めに考えた内容でよかったのか」という問いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文1と資料①～③の内容を基に考えた白神山地からの提言内容を発表する。 「人が入らずにそのままの自然を守ることが提言していると思います」 教材文2を読む。 初めに考えた白神山地からの提言と教材文2との類似点や相違点を挙げる。 「白神山地の自然を守ることについて書かれているのは同じです」 「人が入らないでという提言の内容と、人が入ることを規制している核心地域の内容は、合っていると思います」 「でも、緩衝地域のことは、初めに考えた提言の内容と合っていないと思います」 「付け足して、緩衝地域は、人が自由に入ることのできる地域と書いてあります。人が入らないという提言の内容と、合っていないと思います」 「何だか、初めに考えた白神山地からの提言とは、ちょっと違っている気がする」 (問いをもった状態) 	<ul style="list-style-type: none"> 説明「前回までに、世界自然遺産である白神山地からの提言と、それに対する自分の考えをもちましたね」 発問「考えた白神山地からの提言は何でしたか」 説明「自然を守ることが提言していると考えたみんなに、『白神山地の自然保護』という文章があることを伝えていました」 指示「今日は、実際に文章を読んでみましょう」 提示 教材文2を拡大したものを掲示する。 ※教材文を印刷したものを配付する。 ※教材文全文を一斉音読させる。 発問「みんなが考えた提言の内容と、今読んだ教材文の内容とは合っていましたか」【働き掛け1】 ※発言は、類似点と相違点とに分けて板書する。 ※類似点や相違点をとらえた理由が発言されない場合は、文章のどの叙述から考えたのかを問い返す。 (補助発問) 「なぜ合っている(合っていない)と考えたのですか」 説明「初めに考えた提言内容と、少し違っていると考えている人がいますね」 説明「では、今日は、もう一度、白神山地から提言されていることは何かを考えましょう」 提示 本時の課題を板書して提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 白神山地からの提言を考えよう </div>
<p>2 緩衝地域の事例に納得できるかを考えることで、事例と自分の経験とをつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 説明「初めの提言内容と違っているのは、この緩衝地域の事例だという意見がありました」

- ・筆者の伝えようとする考えは何かを、緩衝地域の事例から考え、発表する。
「緩衝地域は、誰でも入れる地域です。みんなが自然の中に入って行くことで、自然のすばらしさや大切さを体験し、自然を守ろうとする気持ちをもってほしいという考えだと思います」
- ・緩衝地域の事例に納得できるかを考え、そのように判断した根拠を書く。
☆関係付けるすべ
- ・納得できるかの判断と、その根拠をワークシートに書く。
- ・納得できるかの判断と、その根拠を発表する。
「納得できます。なぜなら、わたしも、佐渡自然教室でトキの住みやすい環境をつくる活動をするためにトキの住む森に入ったことがあります。自然の中に入り、トキのための活動することで、もっと自然を守らなければと考えたことがあるからです」
「わたしも、全校登山で角田山に登ったときに、空気が澄んでいて気持ちのよい体験をしたことがあります。自然の中に入ることで、気持ちのよい体験ができ、このような自然は大切にしなければと思ったので、緩衝地域の事例に納得できます」
「わたしは、あまり納得できません。全校登山で山の中に入ったときに、何だか気持ちがよいと感じましたが、この山の自然を守ろうという気持ちをもつことまではなかったからです」

3 白神山地からの提言が意味する内容をとらえ直し、経験を根拠とした自分の考えをもつ。

- ・白神山地からの提言が意味する内容に対する自分の考えをワークシートに書く。
「白神山地は、自然をただ守るのでなく、人が自然と接することによって、みんなが自然を守る意識を高めようということを提言していると思います。わたしの佐渡自然教室の体験から考えると、やはり、人と自然とがかかわることが自然保護につながると考えます」
「白神山地は、人と自然とがふれ合うことも自然を守ることにつながるということを提言していると思います。わたしは、緩衝地域があることで自然とふれ合えると思うけれど、自然を守ろうという気持ちをもてるかは、わたしの経験からは分かりません。自然とかがわって自然を守ろうとする気持ちをもつという緩衝地域よりも、そのままの自然を守れる核心地域こそ、これからも大事にしていくべきことだと考えます」

○発問「この緩衝地域を事例として挙げた筆者が伝えようとしている考えは、何でしょうか」

○発問「緩衝地域があることで自然を守ろうとする気持ちをもつことは、確かにそうだなと納得できますか。」

【働き掛け2】

- 指示「納得できる、あるいは、納得できないと考えた根拠を書きましょう」
※ワークシートを配付する。
- 指示「それぞれの事例に納得できるかどうかの考えを発表してください」
※納得できる意見と納得できない意見とに分けて板書する。
※発言の中で、根拠が伴っていない場合、「なぜそのように判断したのか」と問い返しの補助発問を行う。

○説明「ここまで、白神山地にある緩衝地域について考えてきましたね」

○発問「核心地域と緩衝地域、2つの地域がある白神山地は、何を提言していると考えますか」

【働き掛け3】

- 指示「ワークシートに、白神山地が提言していること、その提言に対するあなたの考えを書きましょう。なぜそのように考えたのか、理由も詳しく書いてください」
※時間があれば、数名を指名し、自分の考えを発表させる。

(3) 評価

教材文2の事例と自分の経験とをつなげ、白神山地からの提言が意味する内容に対して経験を根拠に自分の考えをもっている。

(評価の方法) ワークシートの記述内容から評価する。

